

第14回 SEA-sigedu 教育事例研究会2012 レポート

—教育企画、設計、実践、及び人材育成の改善取り組みの事例研究と討論—

主催：ソフトウェア技術者協会(SEA)教育分科会(sigedu)

共催：熊本大学大学院教授システム学専攻

2012.7.20 SEA 教育分科会(sigedu)

実行委員長 君島 浩

1. はじめに

教育分科会では、毎年初夏の時期に教育の実践報告や最新教育関連の情報交換などを中心とした研究会を開催しています。今年も、人材育成やパフォーマンス向上について新しい取り組みを実践されている方、教育工学に基づき教育の最新技術を研究されている方、ユニークな教育展開をされている方、また担当の教育に問題を抱えて悩んでおられる方が集まり、さまざまな実践事例や改善方策について集中討論会を行いました。



2. 開催概要

(1)日時：2012年7月13日(金)13:30 - 7月14日(土)12:00

(2)場所：キャンパス・イノベーションセンター東京 5階リエゾンコーナー

東京都港区芝浦3丁目3番6号

JR山手線・京浜東北線田町駅 芝浦口(東口) 徒歩1分

都営三田線・浅草線三田駅 徒歩5分

<http://www.isl.or.jp/campusinnovation.html>

(3)プログラム

- 7月13日(金)13:00-18:00 【事例発表と討論 第1部】
- 君島 浩(教育設計研究室)「月例経営研究会向けの歴史・時事ゼミ教材集の開発」
- 加島 一男(フリー)「ビジネスへの貢献を目指して:パフォーマンス向上」
- 篠崎 直二郎(開智 naoj)「医科専門学校における情報教育」

- 中西 千春(国立音楽大)・中西穂高(東工大)・若山昇(帝京大)「CLIL 型学習(内容言語統合型学習)の技法」
- 若山 昇(帝京大)・立野貴之(松蔭大学)「クリティカルシンキングにおける情報リテラシーの教材開発」(懇親会)

<ナイトセッション>

- 米島 博司(NECネッツエスアイ)「新規事業創出に向けて」「教室で何が行なわれているか？」

■ 7月14日(土)9:00-12:00【事例発表と討論 第2部】

- 平野正喜(ランドッグ・オーグ)「情報処理試験シラバス変更に伴う対策講座対策」
- 鈴木克明(熊本大学)「ストーリー中心型カリキュラム改善の軌跡:オンライン大学院の事例」
- 松本尚浩(東京慈恵会医科大)「医療者教育者が大学で生き残るための学術的な仕事・業績ができるシステム」
- 廣江貴則(東京女子医科大)「医療機関におけるデータハンドリングに関する教育プラン -統計学以前の問題として」
- 山崎好男(NECソフト)「Web 教育における満足度向上について」
- 森沢孝喜(フレッシュ・マネジメント)「問題解決会議」

3. 参加者の感想.(お寄せいただいた方のみを掲載しています。)

● 近藤伸也さん(東京大学生産技術研究所)

いつものsigedu流に発表途中から質疑応答を行っており、とても刺激的でした。自分は毎回質問できずにいたのですが、今回初めて発表中に質問ができました。

加島さんのご発表にあった問題は、自分の業界にも当てはまると思ったのですが、訓練で失敗させて自分の経験をぶつけるだけのものや、講義とテスト(選択)だけのものもあり、それ以前の問題なのだと感じました。

若山さんのご発表で、演習の目的が抽象的で、よりよい演習にするためには具体的な目標に分解しなければならぬのだけど、でも演習を行わなければならない苦悩に共感できました。

sigeduに入った当初は見えなかったものがいろいろ経験を積み重ねるうちに見えてきたような気がしてきました。

● 鈴木克明さん(熊本大学大学院)

事例研究会は毎年楽しみにしています。やはりよい実践を作るのが何に増しても大事だと思っているので、実践事例を持ち寄り、どうしたらより良くなるかを語り合い(叩き合い?)、互いに何かのアイデアを「おみやげ」として持って帰るという趣旨が大好きだからです。勢い、こうしたらいいのではないか、という余計なお節介が行き交うことになるわけですが、その際に失礼の数々があったこと(たぶん今年もむっとした方もおられたでしょう)、この場をお借りしてお詫びします。

発表の中で、加島さんが引用してくださった「課題中心の教授方略」はIDの第一原理を提唱したメリルのモデルで、以下(19ページ)に図があります。

2005.7.22[PPT]. 講演「最近のID理論展開」, eラーニングフォーラム2005SUMMER(トラック:戦略立案、運用)J2, eラーニングワールド2005, 東京ビッグサイト

<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/ksuzuki/resume/addresses/eLW2005J2.files/frame.htm>

このモデルは、現在翻訳作業が停滞気味ですが、一応今年いっぱいには出版したいと思っているグリーンブック第三弾の第3章にも載る予定です(予告的宣伝)。

それと私の資料ですが、教育システム情報学会誌の巻頭言として書いたものは、以下から入手可能です。鈴木克明(2011)「論文を書いている暇はない? まあそう言わずに! [巻頭言]」教育システム情報学会誌、28(3) 1-2 http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~idportal/wp-content/uploads/jsise201107_suzuki.pdf 事例としてご紹介した「ストーリー中心型カリキュラム(SCC)については、文科省大学院GP採択事業の報告書は下記から入手可能です。

<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/gp/H21GPreportfinal.pdf>

最後に、事例を論文化したものは、以下から入手可能です(ただし、最終提出版で論文誌に掲載されたものは少し違うかもしれません)。

根本淳子・柴田善幸・鈴木克明(2011)学習デザインの改善と学習の深化を目指したデザイン研究アプローチを用いた実践. 日本教育工学会論文誌, 35(3) (特集号: 新時代の学習評価), 259-268

<<http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~idportal/?p=2420>>

<http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~idportal/wp-content/uploads/35018-JSET.pdf>

現在もまだ修正しながら実施中ですので、アイデアをお寄せいただければ嬉しいです。また何かあったら報告します。さて来年はどんなネタにしようか、今から考えなければ・・・。

● 森沢孝喜さん(フレッシュ・マネジメント(有))

今回は聴講のみで、発表する予定はなかったのですが、参加させていただき以上、やはり発表しなければと思いい、最後に飛び入りで発表させていただきました。

準備不足と場にふさわしいテーマであったかと思いましたが、参加者の皆様にご興味を持っていただけて、よかったと思います。他の方の発表も有意義で、懇親会も楽しかったです。

● 若山昇さん(帝京大学)

まず、お礼。ありがとうございました。

クリティカルシンキング、その1 なぜ、「ありがとう」か?

* 痛烈なコメント、ご意見、感想をいただいた事。

* 普段、自分達が考えていたこと以外の、提案、アイデア、意見、方法論を頂いたことは、極めて貴重。

* 他の仲間が、どんな問題に直面しているかを、共有したこと。さらに、問題解決に、少しでも貢献できた(したかった、したと感じている、そう信じたい等など)こと。

* やはり、仕事で利害関係のない方から、率直な意見をいただけるのは、極めて有難いです!!

● 山崎好男さん(NECソフト)

今回、懇親会だけの参加になりそうなところ、2日目の途中参加での発表でした。

前回の事例発表会から、引き続き、1年をかけての事例だったのですが、直前の準備が全く不足しており、相当に聞き苦しいものになってしまいました。次回はちゃんとやりたいと思います。

● 平野さん(ランドッグ・オーグト)

初日夜&2日目早朝のみの参加でしたので、ご挨拶できなかった方や、発表を拝聴できなかった方には失礼いたしました。

ということで、参加時間が非常に短かったため(大半が懇親会)、感想・意見を述べられる立場ではありませんが、事例を叩き台として持ち寄って、フロアからの「弥勒の知恵」を得るという貴重な仕掛けの力を、今回も頂戴できたことが幸いでした。

なお、今回の発表原稿の「発表後改訂版」を下記に置きました。(後程sigedu-mlなどでもお知らせします) ご興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ご覧の上で、コメントを戴ければ幸いです。

「情報処理試験シラバス改訂に伴う対策講座対策【発表後改訂版】」

<http://rundog.org/sea/sigedu201207.pdf>

● 中西穂高(東京工業大学)

若山先生のご紹介で、先日の研究会に初めて参加いたしました。活発かつユニークで面白い議論が行きかい、楽しい時間を過ごしました。

● 中西千春(国立音楽大学)

二日間、お世話になりありがとうございました。

私の住んでいる世界は、英語教育の狭〜〜い世界。

英語の先生や大学の先生ではない方たちとの接触がほとんどありませんので、皆様との時間はとても刺激的でした。

また、CLILが他の方たちからどのように見えるのかを伺うことができ、とても興味深かったです。

ありがとうございました。

● 米島博司(NECネッツエスアイ)

初夏のミニワークショップである事例研究会も14回を数え、コアメンバーだけでなく新しいメンバーも加えて楽しく有意義な意見交換を今年も行なうことが出来ました。

sigeduの他のイベントにも共通することですが、持ち寄ったそれぞれのテーマに対し、参加者全員で、真剣に受け止め、前向きなアドバイスを与えるという場は、やはりとても清々しく、何度その場に居合わせても気持ちのいいものです。まあ、お陰で10数名の発表を聞いたあとでは、ぐったりと疲労感が残るのも事実ですが、それもまた、互いに嬉しい汗の結果ですね。

自分自身は、昼間のオフィシャルセッションで公表できるネタではなかったのですが(本当はそうでもないけど)、オフセッションで宿泊旅館での3次会で発表させてもらいました。視聴者は二次会のあとでもあり、かなりへろへろになっておられたので、鋭い突っ込みもなく、無事に(?)済んだことは幸いでした。ま、5人しかいなかったせいもありますけど。

来年もまた、楽しく集うことを楽しみにしています。

4. まとめ(実行委員長 君島 浩)

マンネリ回避のために、新春教育フォーラムの担当から事例研の担当へ変えていただきました。初めての方を含めて多彩な顔ぶれがそろったことに感謝します。

ワークショップは、ダンス教室での修業を終えて一人前になって旅立つ人を批評する舞踏ワークショップや一人前の画家が批評しあうアトリエをモデルにした学習手段です。それが世間では初心者のグループ演習に化けて広まってしまいました。

ソフトウェア技術者協会の秋の教育ワークショップは、あくまでも一人前の人々が批評しあう本来のワークショップであり、この事例研究会はその短期間版です。おかげさまで今回も一人前どころか、錚々たる方々の最先端の事例が紹介され、率直な批評がなされました。秋のワークショップも盛会になることを期待しております。

以上

(講演資料は、個人情報などを含むため掲載を割愛いたします。)